

R4年度自己評価結果公表シート

認定こども園新光明池幼稚園

1. 本園の教育目標

幼児の発達や学びの連続性を踏まえ、幼児が多様な経験を一つ一つ重ねていくこと、又、五感を通して「自分で体験し感じる」教育を重視している。園生活の中で教員との信頼関係を育て外へのかかわりを広げ、遊びを通して集中力、持続力、忍耐力や豊かな人間関係、知的好奇心や小学校の教科教育の土台となる学びの芽を培う。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・園内の安全管理を強化する
- ・自園給食の実施と食育の推進
- ・連続した保育・教育を実現するために工夫する。(異年齢間連携の再開)
- ・子どもの学びを促す環境の充実
- ・支援を要する子どもやご家族をサポートする体制づくり
- ・卒園児対象アクティビティの充実
- ・園内のICT化を進める

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
園内安全管理の強化	<ul style="list-style-type: none">・園バスマニュアルの再点検及び新規マニュアル作成(園バス置き去り防止策)・園内安全管理の担当者を配置し、安全会議を年数回実施し、園内組織図の検討を開始。・和泉警察と連携をとり、不審者対応の訓練を実施。
自園給食の実施と食育の推進	<ul style="list-style-type: none">・念願であった、自園完全給食を開始した。給食実施に関しては、考え方の合う管理栄養士及び調理スタッフとの出会いにも恵まれた。可能な限り国産の食材にこだわり、加工品を使わない献立を実施している。おやつも市販のものを減らし手作りの物を増やした。・長年給食会社に任せていたこともあり、様々な点で調整を要したが、概して順調に移行が可能となった。・園内の畑の収穫物を給食食材として使用するなど、畑との連携もはじまっている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・卒園児対象の活動プログラムを増やし、卒園後も子どもたちと園とが繋がることのできるよう進めている。それに伴い、和泉市内及び周辺市内の活動場所の発掘も進めている。
連続した保育・教育を実現するために	<ul style="list-style-type: none"> ・学年が異なる保育者との関係性の構築 →異年齢スタッフが集ってのミーティング →行事担当を異年齢スタッフがペアとなり行う ・学年間でそれぞれの保育を知る →異年齢クラスの保育見学・参加 ・学年同士の連携も重要課題
教職員の専門性と質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの保育及び教育に関わるスタッフとしての意識の向上に努める ・スタッフ一同に会する機会を持ち、園の方向性や考え方を共有する時間を確保する ・各自の保育経験や、任務に合った研修を受講 ・研修受講の機会を促す情報提供を行う ・大私幼のプロジェクトチームに主任を派遣 ・学年間での園内研修を定期的に行い、保育者の保育力向上に繋げる ・他園の公開保育や行事見学を積極的に行い、自園を振り返る良い機会とする ・要支援児のサポートに関する知識の習得 ・スタッフが働きやすく、やりがいを持てる職場づくりを目標とし努力を行っている。
保護者への情報発信と連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の要望には誠実に対応し、園の方針を理解して頂きながら対応する。園内で教員たちが行っている保育をどのように家庭に伝えていくか検討をすすめている。園内スペースでの掲示の工夫、わかりやすい配布物の工夫などを行う。 ・ペーパーレス化を目指し、園長・副園長通信はデータにて配信する。 ・保護者を巻き込んでの活動を実施する →ポニー当番、草花アレンジメント 等
子どもの学び及び遊び環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の各学年の流れに沿うコーナー遊びの検討を進める ・各クラスに環境充実費を支給し、厳選した教

	<p>材、玩具や遊具を揃え、環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁面等の見直しを行う（子どもにとってどうなのかの視点） ・行事の見直し（それぞれのねらいを再度確認する） ・園庭を使用しての活動の充実（お泊り保育、子どもの遊びに合う植樹、虫の観察や飼育活動）
卒園児対象アクティビティの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・卒園児対象の活動プログラムを増やし、卒園後も子どもたちと園とが繋がることができるよう進めている。それに伴い、和泉市内及び周辺市内の活動場所の発掘も進めている。
行政との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・当園臨床心理士を中心に、和泉市保健センター、堺市保健センターと連携を取り、支援の必要な子ども達に対して定期的に話し合いを持っている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
概ね達成できた	<p>新型コロナウイルス感染症対策がある程度慣習化されつつある中、家庭と地域で支えながら、子どもの育ちを保障する園として運営できるよう努力している。大勢のスタッフが集まる園のため、オンラインによる全体会議等、ミーティングを工夫しながら、漏れなく園の方針が全員に伝わるよう努力している。</p> <p>在園児だけでなく、未就園児及び卒園児対象のアクティビティの充実にも取り組んでいる。</p> <p>安全管理では、管理責任者を中心に学期毎に安全項目を確認し合い、検討を進めている。今年度は園バス置き去り防止対策を充実させ、実践に繋がるマニュアルの検討を実施した。</p> <p>また、長年模索していた完全自園給食の実施に踏み切った。厨房スタッフに恵まれ、保護者の方々のご理解もいただき、順調に良い方向に向かっている。HACCPをベースとする衛生管理マニュアルに沿って運営を行っている。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育者がやりがいを感じる職場作り	<ul style="list-style-type: none">・時代の流れの中で、保育教諭に求められる仕事の幅が多様化してきている。チームでサポートする方法を検討する必要がある。・労務管理の検証と共に充実を目指す。
教育・保育の充実	<ul style="list-style-type: none">・幼保連携型認定こども園に移行する中で教育・保育要領についての理解が全教員に浸透するよう研修を重ねる必要がある。・それぞれの保育は充実してきているがまだまだ連携が弱い。数年かけて連携についての意識を高めていく予定である。・支援児が増加傾向にあるため、サポートシステムの検討が必要である。・幼小接続、小学校との連携を進めていきたい。
安全管理組織の強化	<ul style="list-style-type: none">・マニュアルが実践に繋がるものとなっているかの再点検を実施する。様々な安全管理を網羅できるよう努力したい。

6. 学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。